



北海道再生!!

— 一人に温かい道政 —

道政ニュース

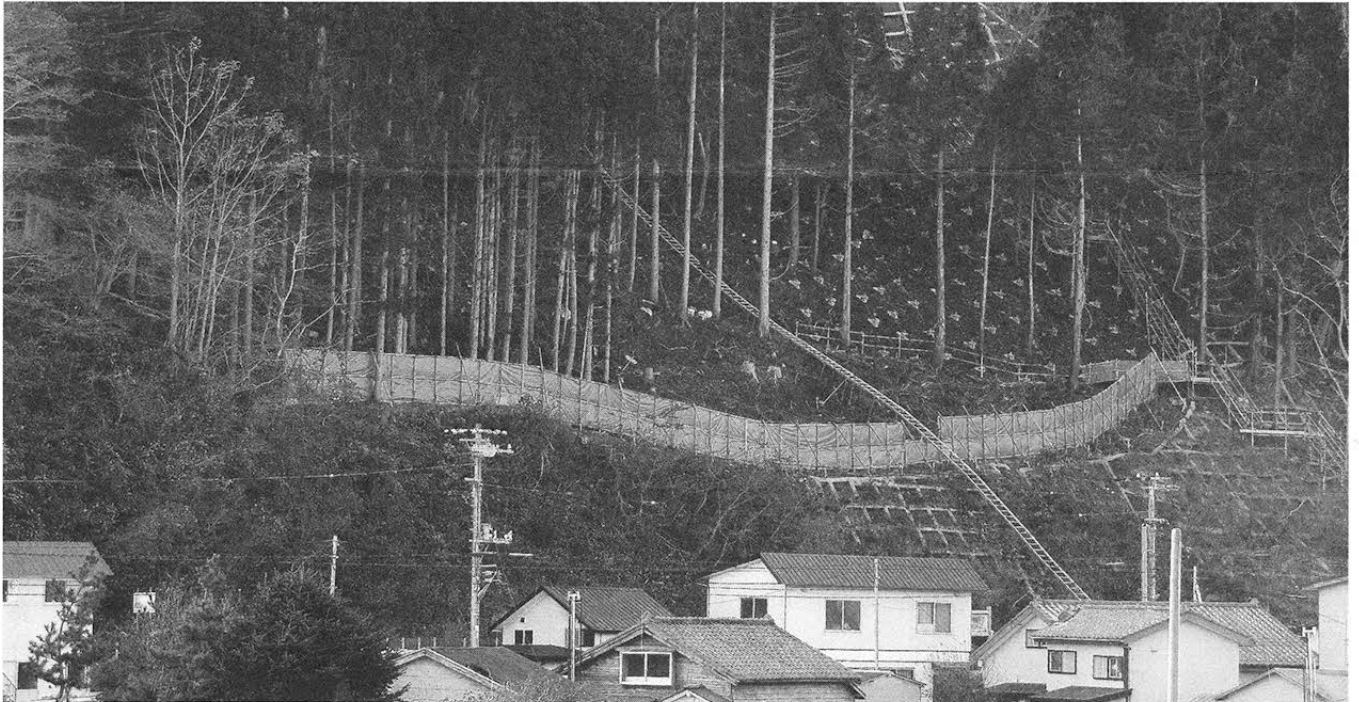
高橋とおる

発行 2018年秋～冬号 No.62

高橋とおる事務所

〈自宅〉函館市美原4丁目2番14号

TEL・FAX 47-0867



戸井地区浜町（土砂災害特別警戒区域）の防災治山工事の様相

災害の備えを十分に

九月六日に発生した胆振東部地震は、厚真町を中心とした広範囲な土砂崩れ、そして北海道が今まで経験したことのないブラックアウト（全道停電）の重複災害となり、多くの道民そして、観光客の皆さんに多大なる被害を及ぼしました。

近年の暴風雨や地震による被災はその規模も広範囲にわたり多くの犠牲を伴っています。

北海道は、その周り全てが海に面しています。そして、海からすぐに道路、その道路に面して民家が建ち並び、背後に急斜面という地域、さらに内陸部の農業地域でも同じように民家の背後に急斜面が迫る、いわゆる「急傾斜崩壊危険区域（高さ5m以上、斜度30度以上）」が約一万二、〇〇〇ヶ所以上にも及び、数年前からこれらの調査を行っておりますが、未だに調査が完了していない状況にある一方、この急傾斜崩壊危険区域となっている箇所の中に、土砂災害防止法に規定される「土砂災害警戒区域」に約五、五〇〇ヶ所、「土砂災害特別警戒区域」に約四、二〇〇ヶ所が指定されていますが、急傾斜地の防災工事はなかなか進んでおりません。

これまで数度に及ぶ土砂災害を見ても、復旧・復興には多くの時間と費用が必要で、亡くなった方は戻ってこないのです。

私たちは、これまでに経験した災害を教訓に強靱な地域づくりと、実効性のある避難計画を進めていかなければなりません。

地震、津波、噴火、台風大雨、暴風、河川の氾濫、大雪等の自然災害の他にも起こりえる、人的な災害にも備えるため、オール北海道の知恵と実行力を結集した備えを早急に取り組んで行かなければなりません。

第三回定例道議会報告

第三回定例道議会は、九月六日に発生した「胆振東部地震」への災害対策を一義的に行うために一日の開会後も議会を八日間休会とし、道の災害対策を重点において会期を先延ばし、当初日程を延長して一〇月一〇日までとしました。

定例会では、地震等の災害対策対応補正予算、「平成三〇年北海道胆振東部地震からの復旧・復興に係る特別な財政措置を求める意見書」、「日米地位協定のあべき姿への見直しを求める意見書」などを可決しました。

本会議や一般質問、予算特別委員会等では、開会直前の九月四日～五日にかけて本道を襲った台風二一号の被害、更に六日未明に起きた本道観測史上最大の震

度七を記録する巨大地震等が及ぼした被災地への対応や、苫東厚真火力発電所の被災を原因とするブラックアウトなどが引き起こした

道民生活、産業活動等あらゆる分野への深刻な影響等について、私たち党派も当面の対策、中長期的な対応などについて、地域の実態を踏まえた提案も含めた質疑を展開、深刻な被災からの復旧・復興、ブラックアウトの検証も含めた道内の電力・エネルギーのあり

方や、被災状況を踏まえた公共施設・設備の強化策等についても知事の考えを求めましたが、災害対策の主導権を官邸や世耕経産相に握られ、主体的な対応や答弁は期待したものではありませんでした。

一方、地震等の発生を受けての災害復旧費等に関する一般会計補正予算四九五億九、三〇〇万円、特別会計一、〇〇万円を急施を要する事案として九月二十八日に採択しました。

また、人口減問題についても自身の政策を曖昧にしたままとなり、公約の達成にはほど遠く、極めて不十分な答弁となり、JR北海道の抜本的な路線見直しなどの重要課題への対応も鈍いままとなっています。

TPP貿易交渉や米国のTAG(実質的なFTA)に関わる一次産業分野の規制緩和に対する影響も、政府の方針を受け入れる対応のみとなっており、道民の反対が多いカジノについては、有識者会議に丸投げしながらも誘致に前のめりであり、

順調とは言えなかった北方領土ビザ無し訪問、多くの道民が求めている北方領土問題についても、日口経済協力活動を見守るだけという主体性に欠けたもので、どの答弁も曖昧な姿勢を買いたままに終始しました。

なお、本定例会で採択された決議意見書につきましては、下記のとおりです。

九月一八日、胆振東部地震の中心的被災地となった「厚真町」へ、現地調査に行ってきました。

現地では、復旧作業中とはいえ、やっと必要な道路が使用できる程度で、亀裂

制緩和に対する影響も、政府の方針を受け入れる対応のみとなっており、道民の反対が多いカジノについては、有識者会議に丸投げしながらも誘致に前のめりであり、

順調とは言えなかった北方領土ビザ無し訪問、多くの道民が求めている北方領土問題についても、日口経済協力活動を見守るだけという主体性に欠けたもので、どの答弁も曖昧な姿勢を買いたままに終始しました。

なお、本定例会で採択された決議意見書につきましては、下記のとおりです。

九月一八日、胆振東部地震が入ったアスファルトや、土砂で盛り上がっている場所などへの暫定工事をしながら、まずは重機が入れるように補修し、少しずつ現場へ進む道路の修復に力を注いでいました。

被災地を視察

九月一八日、胆振東部地震が入ったアスファルトや、土砂で盛り上がっている場所などへの暫定工事をしながら、まずは重機が入れるように補修し、少しずつ現場へ進む道路の修復に力を注いでいました。

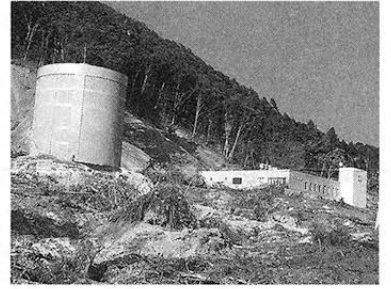


被災地視察・現場で道職員から説明を受ける

第3回定例会で採択された決議・意見書

- 平成30年北海道胆振東部地震に関する意見書
- 平成30年北海道胆振東部地震からの復旧・復興に係る特別な財政措置を求める意見書
- 平成30年北海道胆振東部地震災害関連義援金を差し押さえ禁止とする措置等を求める意見書
- 日米地位協定のあるべき姿への見直しを求める意見書
- 寡婦(夫)控除を全てのひとり親家庭に適用することを求める意見書

また、電気が寸断されていることから送配電工事もアチコチで行われ、多くの方々が汗を流しており、現地の安全パトロールや住民への給水、土砂の廃棄などに自衛隊や道警もせわしなく動きまわっています。



裏山の崩壊で休止状態の富里浄水場。8月に稼働したばかりだった。

役場は住民への対応に忙殺されており、宮坂厚真町長からは、「私達は小さな町の役場ですから、住民のための民生部門にしか手が回りません。道路やインフラなどは国に、そして山や森林関係、ダムなどについては道にお願いする以外にありません。よろしくお願いたします。」と懇願されました。

を遙かに超えた悲惨な状況を目の当たりにし、とりわけ、今年の八月に総工費約六五億円をかけて竣工したばかりの浄水場を土砂が直撃し、稼働約一ヶ月で廃墟と化してしまいました。

現地に入ると、復旧・復興には想像もつかないほどの歳月と費用がかかることが実感として伝わり、この場所での生活をされていた方々の今後を思う時、防災対策と被災対策について対処することが喫緊の課題であり、国・道・基礎自治体や住民のみなさんの総合的な連携が必要であることを痛感しました。

このことも含め、翌一九日に道庁の災害対策担当である阿部副知事に会派として申し入れを行いました。この度の災害では、当初から官邸や首相、世耕経産相が地元実態に合わない現況をマスコミ発表し、知事からは何も発信することが出来ませんでした。

また、知事自身もその発表を無視することも出来ずに、本来の現地対策本部長としての指揮にも影響が出てしまいました。

安倍総理は、臨時国会で憲法改正を議論するとし、その中に「緊急事態条項」を盛り込み、大地震などの大規模な災害時には、迅速に対処するために国が主導して対策を行う事を主張していました。今回の胆振東部大地震を見ても、間違った情報を政府発表とし、それに基づいた対策を押しつけ、道も困惑してし

まいりました。先の九州熊本大地震などでも地元の首長が、「現地のことでは現地が一番分かっている。政府は余計なことをせず、現地に様々な権限を与えて欲しい」などとの発言もありました。まさしく、大規模災害において、現地判断を優先とし、現地の要望に迅速に対応するという対応こそが政府に求められているものだと思います。

高橋とおる

道政を語る会開催

八月三十一日(金)午後六時半より、新装なった函館国際ホテルにおきまして、「高橋とおる道政を語る会」を開催いたしました。

当日は、六〇〇名を超え

首議会議員 高橋とおる



る多くの皆さんにご参加をいただき、心から感謝を申し上げます。

会は、新しく高橋亨道議の後援会長に就任された新谷則実行委員長による主催者代表挨拶に始まり、ご来賓の逢坂誠二衆議院議員、辻 泰弘北海道副知事、工藤壽樹函館市長からそれぞれユーモアを交えた祝辞を賜りました。その後、私から道政課題や縄文文化世界遺産登録に関する活動などの報告をさせていただきました。

函館市社会福祉協議会の奥野秀雄会長の祝杯で懇親が

始まりました。

祝杯後、私の道議会仲間であり来年の参議院議員選挙に立候補する予定の勝部賢志氏のスピーチ、いつも私を支えてくれる福島恭二市議会議員、斉藤佐知子市議会議員、道畑克雄市議会議員にも続けてスピーチをしていただきました。

ステージでは、「村木永親とククナウインズ」のハワイアン演奏に合わせて、奥様の「村木小百合フラダンス・スタジオ」の仲間の皆さんのフラダンスが華やかに行われており、その間に全てのテーブルを一つずつ廻り、日頃のご無沙汰のお詫びや参加していただいたお礼、道政に関わる質問を受けたりなどしている間にステージでは抽選会が始まりました。

抽選発表に歓声が上がったり、ため息が漏れたり、予定の二時間も超えてしま



い、結びには、佐藤秀臣函館市身体障がい者福祉団体連合会会長の乾杯で、和やかなうちに開きとなりました。毎年なのですが、どの位の皆さんが集まってくれるだろうかと心配していましたが、お陰様で、いつも多くの皆さんに参加してもらっていることに心から感謝いたしますと共に、また来年も、皆さんと楽しい時間が過ごせるように今後も努力して参りたいと思います。

写真で見る主な活動

※詳しい活動報告はホームページに掲載しています。



北海道たねの会から種子条例に関わる要望書を受け取る (8月7日)



北海道精神障害者家族会連合会代表から要望書を受け取る (9月5日)



阿部副知事へ災害復旧・復興に最善を尽くすことを申し入れ (9月19日)



自治労北海道本部第60回定期大会であいさつ (9月27日)



J R北労組函館地区本部第16回定期大会であいさつ (9月30日)



亀田本町地域少年野球交歓会で大会長としてあいさつ (9月30日)



第51回肢体不自由児者父母の会連合会全国大会・第31回全道肢体不自由児者福祉大会会場にて (9月30日)



北海道市町村文化財保存整備協議会から要請を受ける (10月10日)